

P-345

生き生き人材育成『地域とのコラボレーション
看護フェスタの開催』

庄原赤十字病院 看護部

谷口^{たにくち}理恵^{りえ}、三河内敬子、榎原芙美子、島田 節子

【1.はじめに】平成21年度 庄原赤十字病院看護部では看護哲学にナイチンゲール看護哲学を取り入れた。F.ナイチンゲールによるさまざまな価値観に寄与しながら看護を可視化することをめざしている。この取り組みの通過点として2011年7月庄原市との協賛による“ナイチンゲールフェスティバル”の開催が実現する。本企画の目的は看護のすばらしさを伝え、未来に向けた看護の歴史をになう仲間作りに貢献することである。看護に縁のある地域住民と看護職による看護の可視化企画の開催は珍しく、全国でも類をみない。企画を遂行するには戦略的な組織活性化（AI）がベースにあり『育み育まれる』組織創りによる組織開発・人材育成への取り組みである。そこで人材育成の視点から本企画をご紹介します。

【2.ナイチンゲールフェスティバルまでの経緯】ナイチンゲール看護論と思想は新人看護師研修・教育担当者研修など随所に盛り込んだ。看護師長・看護係長も主体的に勉強会を開催し、近未来（1年後）への夢を語り合った。その結果、看護師長・係長ともに『23年度には自分たちの言葉で看護を語り、そのすばらしさを多くの人々に伝えたい』と語っていた。

平成22年度には日本赤十字広島看護大学主催による看護管理カンファレンスにて組織開発の手法であるAI（Appreciative Inquiry）を活用する機会を得、看護フェスタの開催への組織的取り組みが実現した。

【3.ナイチンゲールフェスティバルの企画内容】川嶋みどり氏による講演会と13ブースの看護と地域住民とのコラボである。看護をアロマや木工細工・パルンアート・患者家族や仲間からのメッセージ・テーマのオブジェ作成・など多岐にわたる看護の表現である。

【4.今後のビジョン】看護だけでなく命を守り支える職種・地域と協働したいと考える。